40年ぶりの決勝逃す

闘え！大商大　大商大スポーツ　DAISHODAI SPORTS　FREE！

神宮ベスト4

関西第1代表で出場

硬式野球部

関西地区選手権を制し、3年ぶりの神宮大会出場を決めた大商大。準々決勝で環太平洋大をタイブレークの末に下した。そして、40年ぶりの決勝進出をかけ、國學院大と対戦するも敗戦。9年ぶりの4強進出に沸いたが、悲願の日本一には届かなかった。



明治天皇御生誕170年記念第53回明治神宮野球大会
11月18日～24日　明治神宮野球場

○数字は出場回数

準々決勝	11/20 神宮	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	安	失
	環太平洋大	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	4	6	1
	大商大	0	0	0	1	2	0	1	0	0	1X	5	11	3

準決勝	11/22 神宮	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
	國學院大	0	0	0	3	0	0	0	3	0	6	9	1
	大商大	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	3	2



第20回大阪市長杯争奪関西地区大学野球選手権大会
兼第53回明治神宮野球大会関西地区第1・2代表決定戦
10月29日～11月2日　大阪市南港中央野球場

5年ぶり関西王者

関西六大学野球連盟の絶対王者として、3年ぶりの明治神宮野球大会出場をかけた関西地区大学野球選手権大会に挑んだ大商大。初戦は宿敵・阪神大学野球連盟の天理大学との対戦となった。まず初回に植本亮太（公共4・明石商業）の2点本塁打と明石楓大（公共1・近江）の適時打で3点を先制すると、2回裏にも得点を重ね、5―1で勝利した。次戦は京滋大学野球連盟の京都先端科学大学との一戦。1回裏に2点先制したのを皮切りに、3回裏には植本の2試合連続となる本塁打などで追加点を挙げ、6―2で圧勝した。

大商大は決勝に駒を進め、関西地区第1代表の座をかけて、関西学生野球連盟の関西大学と激突した。先発のルーキー・鈴木豪太（公共1・東海大学付属静岡翔洋）、プロ注目左腕・高太一（公共3・広陵）、侍ジャパン大学代表・上田大河（公共3・大商大）の継投策で再三のピンチをしのぎ、白熱の投手戦で0―0のまま試合は9回に突入。9回裏2死から相手のエラーで2塁に進塁すると、ここで明石が適時打を放ちサヨナラ勝ちを収めた。関西大を下した大商大は、5年ぶり3回目の優勝で神宮大会への切符をつかんだ。

文／中川玲菜（経営1・三重）

雨の大接戦

雨が降りしきる中、プレーボールとなった神宮大会の初戦の相手は、中国・四国三連盟の環太平洋大学。試合が動いたのは4回表、環太平洋大に2点の先制を許してしまう。その後、シーソーゲームが続いたが、7回裏に大商大は粘って家田陸翔（公共4・近江）が適時打を放ち、再び勝ち越しに成功。喜んだのもつかの間、8回表に追いつかれてしまう。逆転だけは避けたい2死1・3塁のピンチの場面でマウンドに上がった伊原陵人（商4・智辯学園）が力強いストレートで三振に仕留め、両者譲らずタイブレークに突入した。

10回表、環太平洋大の無死1・2塁からの攻撃を伊原が無失点で切り抜けた。その裏、無死1・2塁から明石が犠打を決めて好機をつくると、申告敬遠で1死満塁とし、主将の碓井雅也（商4・天理）が投前にスクイズを決めて決勝点を奪った。

「タイブレークになった時点で燃えていた。最後の大会だったので、絶対に点はやらないと思った」（伊原）、「4年間鍛えられてきたので、怖がることなくスクイズができた」（碓井）と初戦突破の喜びをかみしめた。大商大の4強入りは実に9年ぶりとなった。

まだ届かない

準決勝の相手は東都大学野球連盟の國學院大学だ。序盤から國學院大のペースで進み、4回表に3失点。打線も6回裏1死まで無安打と巨人のドラフト3位・田中投手に苦しめられたが、代打・犬飼慶樹（経済4・尽誠学園）の初ヒットからチャンスをつかみ、2死満塁の場面で河西威飛（商2・鳥取城北）の適時打で2点を返し、1点差に詰め寄った。しかし、反撃もここまで。8回表に再び3失点を喫し、6―2で準決勝敗退。「今年こそは」と乗り込んだ神宮を決勝目前で去ることになった。

神宮大会を振り返り、碓井は「自分の力不足。監督を胴上げできなかったのが悔しくて仕方がない」と涙を流した。悲願の日本一は下級生へと託された。悔し涙を糧に大商大の日本一への挑戦は続く。

文／酒谷菜月美（商2・神戸星城）



1碓井×11伊原

社会人野球ではライバルに！

「第20回大阪市長杯争奪関西地区大学野球選手権大会兼第53回明治神宮野球大会関西地区第1・2代表決定戦」
優勝（5年ぶり3回目）（神宮大会出場（関西五連盟第1代表）決定）
最優秀選手賞　碓井 雅也（商4・天理）
最優秀投手賞　上田 大河（公共3・大商大）

「明治天皇御生誕170年記念第53回明治神宮野球大会」
ベスト4

「第55回日本学生野球協会表彰選手（大学）」
関西六大学野球連盟【主将・捕手】 碓井 雅也（商4・天理）

第28号
1面　硬式野球部
2・3面　リーグ戦総まとめ　空手道部　他
4面　その他の主な大会結果　他
5面　日本拳法部　ウエイトリフティング部　柔道部
6面　ボクシング部　準硬式野球部

※文中人名後の（　）内は、所属学科学年・出身高校

リーグ戦2022総まとめ 通年・秋 応援が力に！

男子2部 4位 2勝3敗

卓球部

春季リーグ戦で男子2部へ昇格した大商大にとって、2部での戦いは3季ぶりとなった。関西学生秋季リーグ戦（開幕2連敗と苦しいスタートとなったが、甲南大学には不戦勝で勝利。続く大阪成蹊大学には大接戦の末に敗れたが、流通科学大学との最終戦では4－0の圧勝で意地を見せた。2勝3敗で4位となり、2部残留で今季の幕を閉じた。

新主将となった坂田開夢（商3・報徳学園）は「惜しかった…で終わるのではなく、次こそ勝ち切れるように日々の練習を大事にしていきたい」と語った。来季こそ1部昇格という目標に向けて、日々前進あるのみだ。

文／片山想愛（商2・京都すばる）



関西学生卓球秋季リーグ戦
9月2日～9日　横大路運動公園体育館他

男子2部 6位 4勝6敗

ボウリング部

関西学生ボウリング秋季リーグ戦において、大商大は男子部6位で終えた。人数不足で春季リーグ戦出場を見送ったが、新入部員が入って部員が6人となり、秋季リーグ戦の出場ができた。5人で戦う団体戦だが、主将の黒川優貴（経済4・大商学園）以外は全員がリーグ戦初出場という状況下で健闘した結果となった。

黒川は「順位に関係なく出場できたことに価値があった。次は表彰台を目指して頑張ってほしい。また、女子部員が入れば男女混合の大会にもどんどん出場していってほしい」と後輩に託した。これからの下級生の成長と活躍に期待がかかる。

文／奥野華（商1・吹田）

第61回関西学生ボウリング秋季リーグ戦
9月11日～10月23日　キョーイチボウル平治他

1部 14位 1勝13敗

バスケットボール部

関西学生バスケットボールリーグ戦1部リーグで1勝13敗となり、2部リーグへ自動降格となった大商大。主将の大坪一聖（経営4・岐阜農林）は「チームみんなで戦うというテーマを掲げて試合に臨んだが、うまくいかず難しいシーズンだった」と肩を落とした。しかし「最後の最後まで一つになろうと全員が意識していたので、チームで戦うことの大切さは全員の心の中に残ったと思う」と語った。

来季に向けては「新チーム一丸となって、周囲への感謝の気持ちを忘れず、強く優しいチームを目指してほしい」と後輩へエールを送った。これからの大商大バスケットボール部の躍進に期待したい。

文／竹中未来哉（経済1・敦賀）



関西学生バスケットボールリーグ戦
9月1日～11月5日　兵庫県立総合体育館他

2部 6位 9勝11敗4分

サッカー部

関西学生サッカーリーグは11月に試合が全て終了した。今季から2部でスタートを切った大商大は前期6位で折り返したが、後期は8位に後退し、通年では9勝11敗4分で6位と「2部残留となった。今季は新型コロナウイルスの影響で練習が十分にできなかったこともあり、主将の林沼拓海（商4・近江）は「密になったりとさまざまな苦戦を強いられた。

主将の松田泰生（公共4・履正社）は「勝てずに苦しい時期もあったが、チームで充実したシーズンを過ごすことができた」と話し、来季については「技術の高い選手や経験値の高い選手が多くいる2部後輩の活躍に期待を膨らませた。1部昇格に向け、チーム一丸で勇往邁進してほしい。

文／須原結（商2・津山商業）



男子2部 6位 1勝4敗

ソフトテニス部

関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦で、予想外の男子2部6位に終わった大商大。秋から声出したことで団結力が増した。応援があったので、チームがまとまりやすかった。活躍した後輩たちの経験が、次の春に向けて役に立つと思う」と話し、「部昇格を目標に勝負できるチームを作っていきたい」と抱負を語った。

文／加藤柚奈（経済3・都城商業）

関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦・入替戦
9月24日・25日　マリンテニスパーク・北村

男子3部 3位 2勝2敗0分

フィールドホッケー部

大商大・近畿大学・大阪公立大学杉本キャンパスとの合同チームで出場し、男子3部準優勝と健闘した春季リーグ。関西学生ホッケー秋季リーグも同じ3大学で臨んだ。大商大は部員が2人、新型コロナウイルスの影響で過去2年間リーグ戦に出場できなかったこともあり、主将の林沼拓海（商4・近江）は今年が最初で最後のリーグ戦となった。

「楽しみながら勝つという目標をチームで掲げ、1勝2敗のリーグ3位で迎えた3位決定戦は僅差で敗れたリーグ4位の和歌山大学との再戦。4－2で勝利し、男子3部3位で終えた。大商大フィールドホッケー部は、4月に新入部員が入らなければ休部になるという、部員がそろって再びフィールドに立つ姿が見たい。

文／石田優音（経営1・向陽台）



ODリーグ参加 全勝 5勝0敗0分

ラグビー部

関西大学ラグビーリーグが10月から11月にかけて行われ、大商大はびわこ成蹊スポーツ大学と京都教育大学との合同チームを組んで出場した。昨季は7人制リーグに出場したが、今季は15人制リーグに合同Bチームとして出場。合同Bチームは初戦の兵庫教育大学に逆転勝ちを収めるとその後もDリーグの4大学に次々と勝利し、5戦全勝を果たした。

しかし、合同チームはオープン参加のため、順位対象外でリーグ昇格はないがそれでもワンチームでつかんだ全勝に、全員がうれしさを爆発させた。来季は大商大だけで15人のチームを組めるように、新入部員を募って出場し、Dリーグ制覇、そしてCリーグ昇格を目指す。

文／久保直暉（商3・名張青峰）



関西大学ラグビーリーグ
10月2日～11月27日　兵庫教育大学加東キャンパスラグビー場他

体育会本部 NEWS

第73代 新役員決定!!

さあ、みなさんお待たせいたしました!!! ついに第73代体育会本部の新役員が決定いたしました！ 新型コロナウイルス感染収束の目処が立っていない状況の中、逆境を跳ね返し体育会系クラブ生をサポートするべく立ち上がった勇敢な3人をご紹介します!!

文／竹中未来哉（経済1・敦賀）

新委員長メッセージ

第73代体育会本部は、昨年に引き続き、新3年生が委員長・副委員長を務めさせていただきます。2022年はさまざまな行事が再開され、体育会本部としての活動も増えました。その経験を生かして体育会クラブ生のサポートや、交流の機会を大切にしてメリハリのある活動を行っていきます。分からないことや不安なこともありますが、体育会本部一同、陰ながら体育会系クラブ生の皆様の活動を全力でサポートしてまいります。これから1年間、よろしくお願いいたします。

体育会本部主催の行事

体育会本部では、3月に新主将・新主務のための「リーダース研修会」、6月に新入部員のための「フレッシュマン研修会」、10月に昨秋季から今春季までの戦績優秀なクラブを表彰する「覇業交歓会」、12月に総決算の「体育会総会」を行っています。また、全国大会に出場するクラブの激励壮行会や、御厨祭にあわせてフットサル大会も主催しています！

文／片山相愛（商2・京都すばる）

体育会総会

※文中人名後の（　）内は、所属学科学年・出身高校

有観客試合、解禁!!

完全V 10勝1敗

硬式野球部

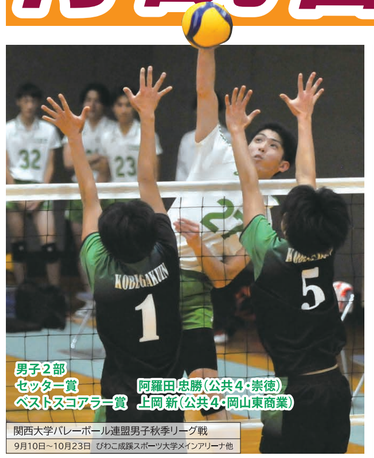
春季リーグ戦に続き、大商大は関西六大学野球秋季リーグ戦でも優勝（2季連続23回目（旧リーグを含む））を収めた。第7節1回戦の龍谷大学戦では、渡部聖弥（商2・広陵）が秋季リーグ戦5本目となる本塁打を放ち、連盟シーズン個人最多本塁打記録を更新。連盟創設以降初の快挙となった。

渡部は「連盟記録に自分の名前を刻めたことはすごくうれしい。この記録はあくまでも通過点なので、これからもっと成長して信頼されるバッターになりたい」と目標を語った。

大商大は神戸学院大学に1敗を喫したものの、圧倒的な強さで秋季リーグ戦としては2季ぶり10回目（旧リーグを含む）の優勝を飾り、さらに関西地区選手権でも優勝し、神宮大会出場の切符を獲得した。

秋季リーグ戦を振り返り、主将の碓井雅也（商4・天理）は「一戦一戦、最高の準備をしながら、一戦も負けられないというプライドを持って戦った。その結果が優勝につながった」と語った。

文／中川玲菜（経営1・三重）



関西大学バレーボール連盟男子秋季リーグ戦
9月10日～10月23日　びわこ成蹊スポーツ大学メインアリーナ他

男子2部 3位 4勝3敗

バレーボール部

春季リーグ戦で2部へ自動降格となった大商大は、関西大学バレーボール連盟男子秋季リーグ戦で1部への即返り咲きに闘志を燃やしていた。開幕4連勝と波に乗った大商大だったが、残り3敗ともフルセットにもつれ込む接戦で3連敗を喫し、3位に沈んだ。

最終戦は首位独走の神戸学院大学との一戦。勝って昇格に望みをつなげたい大商大だったが、マッチポイントを逃し惜敗。2部残留となった。

主将の阿羅田忠勝（公共4・崇徳）は「1部に昇格できなかったことを申し訳なく思う。それでも、試合をしていく中で、チームの団結力や組織的な技術力がだいぶ上がった」と振り返り、「春は1部に上がれるように後輩たちに頑張ってもらいたい」と熱く語った。今季で向上した団結力や技術力をさらに磨き、来季で1部昇格だ！

文／山田穂乃実（経営1・市立伊丹）

全日本大学選手権 悔しさにじむ3回戦敗退

空手道部

全関西大学空手道選手権大会の男子団体組手1部競技でベスト8に入り、全国大会出場を決めた大商大。11月、日本武道館で行われた全日本大学空手道選手権大会に挑んだ。2回戦から登場した大商大の初戦の相手は、慶應義塾大学。関東大学空手道選手権大会ベスト8の強敵で、互角の戦いになると予想していた。

まず先鋒戦で主将の京極立（経済4・大阪学芸）が無失点の白星を挙げ勢いづけると、続く次鋒戦も新星・木ノ下晃佑（公共1・倉敷）が辛勝。中堅・田中雄史（経済4・浪速）が残り6秒で逆転勝利を収めた。副将戦、大将戦は敗れるも、3－2で勝ち上がった。

3回戦の相手は、九州産業大学。「学生大会最後の全国大会でも緊張することなく、平常心で臨めた」という先鋒・京極が圧勝。しかし、次鋒戦では敗れ、中堅・田中が手堅く勝利するも、接戦の副将戦を落とし、勝負は大将戦にもつれ込んだ。大商大は最後まで果敢に攻めるも力尽き、2－3で惜しくも3回戦敗退に終わった。

京極は「日本一という目標の下で、部員の気持ちが一つになって試合ができた」と大会を振り返った。ここでの課題を次につなげ、さらに高みを目指してほしい。

文／知念春那（経済1・糸島）



阪神六大学準硬式野球連盟秋季リーグ戦
9月1日～10月21日　久宝寺緑地硬式野球場他

男子5部 Aブロック予選リーグ 3位 3勝2敗

硬式庭球部

3年ぶりに開幕する関西大学対抗テニスリーグ戦を心待ちにしていた大商大硬式庭球部。リーグ戦中盤まではどこがリーグ突破するか先の読めない展開となったが、大商大は男子5部予選リーグAブロック3勝2敗で3位に留まり、決勝トーナメント進出を逃した。目標としていたリーグ突破はかなわなかったが、コロナ禍で制限された厳しい状況下で練習に励み、3勝を挙げられたことに胸をなで下ろした。

新主将となった東龍汐（商2・成美）は「初めてのリーグ戦の雰囲気にのまれた。来季は決勝トーナメントで戦いたい。これから新入生を迎えて新体制となるが、それまでに今から準備できることをやっていく。コロナ感染にも気をつけながら、主将としてしっかりと務めていきたい」と決意を新たにした。新世代の成長と活躍に期待がかかる。

文／奥野華（商1・吹田）


関西大学対抗テニスリーグ戦予選
8月31日～9月8日　大商大多目的屋内競技場他


覇業交歓会


激励壮行会

「第62回空手道全日本学生選手権大会」
団体戦　大学　組手の部　優勝
一般男子-75kg級　組手の部　3位　河原林 竜暉（公共2・京都外大西）
一般男子オープン　組手の部　3位　大木 春弥（公共1・浪速）
一般女子　組手の部　1回戦敗退　西川 瑞稀（商1・大阪学芸）
1回戦敗退　村山 花美（商1・大阪学芸）

「第63回全関西大学空手道選手権大会」
男子団体組手1部　ベスト8

「第66回全日本大学空手道選手権大会」
男子団体組手　3回戦敗退

第66回全日本大学空手道選手権大会
11月20日　日本武道館

※文中人名後の（　）内は、所属学科学年・出身高校

全日本学生 混戦の男子団体 4位も悔いなし



第67回全日本学生拳法選手権大会
12月11日　エディオンアリーナ大阪

日本拳法部

学生拳法の集大成となる全日本学生拳法選手権大会が12月に大阪で行われた。優勝を狙う大商大は、初戦となる2回戦、慶應義塾大学に大将・浦窪大吾朗（公共2・関西福祉科学大学）が勝利して突破した。続く3回戦、準々決勝では大阪歯科大学と同志社大学にいずれも6勝1敗と快勝し、準決勝に駒を進めた。

しかし、別のコートで波乱が起こる。3連覇を狙う明治大学が準々決勝で関西学院大学に負けたのだ。これにより、全国大学選抜選手権決勝で敗れた明治大に雪辱を果たせなくなった。

絶対王者・明治大を破った関西学院大との決勝進出をかけた一戦。先鋒は小土井皆貴（公共4・東大阪大学柏原）。先鋒戦で勝利し流れをつかみたかったが敗北。続く次鋒戦、三鋒戦も勢いに乗った関西学院大を止められなかった。後がない大商大は、中堅・上田稜也（経済4・大商大堺）が相手の反則2本で1本を取り、そのまま勝利なんとか持ちこたえた。しかし、その後の三将戦、副将戦と2勝5敗で敗北した。関西学院大については、明治大が勝ち上がってくると思い対策を練っていなかったという。

失意の中、3位決定戦に向け「どんな結果でも胸を張って帰ってこい」（小土井）と気持ちを奮い立たせ臨んだ。その相手は関西大学。先鋒戦で小土井は先に1本取られたが、面横打ちと胴突きにより2本取って勝利した。しかしこれ以降、関西大に終始圧倒されてしまった大商大は、1勝5敗1分で敗れ、4位に終わった。

主将の小土井は「2年連続4位で昨年と同じような負け方をしてしまい、悔しい思いでいっぱい。でも、最高の仲間と戦えたことを誇りに思う」と清々しく語り、涙する後輩に感謝した。4年生の思いを引き継いだ後輩の姿に「日本一」の期待を込める。文／久保直暉（商3・名張青峰）

「日本拳法総合選手権大会（第62回全日本拳法男子個人選手権大会）」
3回戦敗退　上田 稜也（経済4・大商大堺）
2回戦敗退　浦窪 大吾朗（公共2・関西福祉科学大学）
1回戦敗退　小土井 壱貴（公共4・東大阪大学柏原）

「第37回全日本学生拳法個人選手権大会」
男子の部　3位　上田 稜也（経済4・大商大堺）
ベスト8　野川 拓真（経営4・関西福祉科学大学）
4回戦敗退　小土井 壱貴（公共4・東大阪大学柏原）

「第67回全日本学生拳法選手権大会」
男子団体　4位

全日本学生個人 上田 集大成の3位 男子の部



第37回全日本学生拳法個人選手権大会
10月23日　パロマ瑞穂アリーナ

全国大学拳士の最高峰決定戦である全日本学生拳法個人選手権大会が10月に行われ、男子の部で上田稜也（経済4・大商大堺）が3位入賞を果たした。

中央大学の横井選手との準決勝、試合終盤まで一進一退の戦いを繰り広げていたが、残り時間51秒で1本を先取されてしまう。巻き返しを試みたが、相手の流れを断ち切れずラスト10秒で2本目を奪われ、学生最後の個人戦は幕を閉じた。

上田は「いつもは会場の雰囲気に緊張していたが、悔いを残さないよう楽しんで試合に臨めた」と語った。同大会では過去ベスト8が最高だった上田。4年生で表彰台に上がり、有終の美を飾った。文／石田優音（経営1・向陽台）

「第41回関西学生柔道体重別選手権大会」
男子90kg級
ベスト16　小松 千里（公共2・三井）

「2022シニア世界クラッシュ選手権大会」
男子-90kg級
3位　小松 千里（公共2・三井）

柔道部

世界クラッシュ 男子-90キロ級 小松 銅



2022シニア世界クラッシュ選手権大会
11月26日～28日　インド・プネー

クラッシュとは、柔道の立ち技に似たウズベキスタンの国技。上半身にブルーとグリーンの胴着を着て投げ技だけで行われる。クラッシュの日本代表候補選手選考会で優勝を果たした小松千里（公共2・三井）が、11月にインドで行われたシニア世界クラッシュ選手権大会で男子-90㌔級の銅メダルを獲得した。

小松がクラッシュの大会に出場するのは、今回が初めてで不安もあったという。準決勝は相手に技ありを取られ、巻き返せずに4分間が終了。一歩及ばなかった。しかし、クラッシュで身についた勢いよく技をかける思い切りさや粘り強さは、柔道にも生かせると収穫もあった。「チャンスがあれば来年9月に行われるアジア大会にも出場したい」（小松）と巨漢を輝かせた。

ウエイトリフティング部

7月の西日本学生大会の男子団体戦で3位という目標通りの結果に喜んだ大商大は、12月の関西学生ウエイトリフティング選手権大会では2位以上を目標としていた。しかし、結果は目標に届かず3位となった。

団体戦は個人戦出場選手の中から団体戦メンバーを選び、その選手の個人戦のスナッチとクリーン&ジャークの2種目のベスト記録、そしてトータル記録それぞれの順位を得点化（1位6点～6位1点）し、団体戦の順位を決めていく。12月17日から18日にかけて行われた同大会で、大商大は初日の階級では出場者がおらず、2日目から登場した。まず73㌔級で団体戦の得点が入ると、81㌔級・太田頼暉（公共3・柴田）が3位89㌔級・杉本航太郎（公共2・柴田）が優勝で得点を積み上げた。続く96㌔級・杉谷優太（公共1・星槎国際）が、スナッチ1本目で130㌔を挙げ大会新記録をたたき出し会場を沸かせるも、クリーン&ジャークでは3本とも失敗してしまう。

その後、102㌔級・和久野友暁（公共2・安曇川）が準優勝、109㌔級・岩谷梅輝（公共2・若狭東）が優勝と再び得点を積み上げていった。最後は+109㌔級で近畿大学の追い上げをしのぎ、1点差で団体3位入賞を守り切った。

主将の和久野は「全員が順調に挙げれば、2位を取れると予想していた。取れなかったのは少し残念だが、今大会のベストを尽くした結果の入賞で良かった。来季は後輩たちに関西一、西日本一を取ってもらいたい」と力を込めた。かつて関西53年連続優勝という偉業を成し遂げた大商大ウエイトリフティング部では3本とも失敗してしまう。

その後、102㌔級・和久野友暁（公共2・安曇川）が準優勝、109㌔級・岩谷梅輝（公共2・若狭東）が文／加藤柚奈（経済3・都城商業）

「レディースカップ
第14回全日本女子選抜ウエイトリフティング選手権大会」
一般55kg級　15位　山口 桃花（公共1・舞子）
一般59kg級　15位　弓岡 郁菜子（公共4・須磨友が丘）

「文部科学大臣杯
第68回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（Ⅱ部）」
男子の部　団体　4位
81kg級　準優勝　太田 頼暉（公共3・柴田）
89kg級　3位　杉本 航太郎（公共2・柴田）
96kg級　優勝　杉谷 優太（公共1・星槎国際）

「第68回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（女子）」
団体　10位

「第69回関西学生ウエイトリフティング選手権大会（男子）」
団体　3位
81kg級　3位　太田 頼暉（公共3・柴田）
89kg級　優勝　杉本 航太郎（公共2・柴田）
102kg級　準優勝　和久野 友暁（公共4・安曇川）
109kg級　優勝　岩谷 梅輝（公共2・若狭東）





第69回関西学生ウエイトリフティング選手権大会（男子）
12月17日・18日　はびきのコロセアム

※文中人名後の（　）内は、所属学科学年・出身高校



その他の主な大会結果（2022年7月25日～12月18日）

▸全結果は大商大課外活動WEBページ「News&Topics」をチェック！ https://ouc.daishodai.ac.jp/club/

◆ソフトテニス部
「第76回文部科学大臣杯
全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会」
男子の部　2回戦敗退

「第77回三笠宮賜杯
全日本学生ソフトテニス選手権大会」
男子の部
4回戦敗退　小玉 洸矢（公共2）・富永 晴樹（公共3）
4回戦敗退　小林 歩輝（公共1）・手塚 涼太郎（経営1）

「第64回全日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会」
男子の部
2回戦敗退　辰巳 裕二郎（公共2）

◆卓球部
「第55回会長杯争奪卓球大会（団体の部）」
男子団体　優勝

「第55回会長杯争奪卓球大会（個人の部）」
男子ダブルス
3位　住友 祐介（経済1）・曽我 拓海（公共1）
ベスト16　宮川 支温（商3）・東 健太郎（経営1）
男子シングルス
ベスト16　本田 仁志（経済2）
ベスト16　住友 祐介（経済1）

◆バレーボール部
「Phiten CUP関西バレーボール大学男女選手権大会」
男子トーナメント　1回戦敗退

◆カヌー部
「第58回全日本学生カヌースプリント選手権大会」
男子K-1 200m　予選敗退（H-2組8位）　木下 駿（商4）

◆剣道部
「第61回大阪学生剣道優勝大会」
1回戦敗退

◆ボウリング部
「第43回関西学生オープンボウリング競技大会」
男子シングルス戦
59位　石田 貫太（経済2）
64位　堅尾 宗司（経営1）
89位　黒川 優貴（経済4）
92位　森崎 健太（経営1）
男女混合5人チーム戦　14位
男子団体戦　2回戦敗退

◆陸上競技部
「関西学生陸上競技種目別選手権大会兼第44回関西学生混成選手権大会」
男子4×400m　予選敗退（予選4組7位）
松川 恵二郎（経済3）・北脇 巧也（経済2）・
山川 直也（経営1）・大山 翔樹（公共2）

学生記者大募集中！

スポーツ観戦が好きなあなた、
一緒にクラブ生の応援に行きませんか？
大学で何かに挑戦したいあなた、
一緒に「大商大スポーツ」を作りませんか？

お問い合わせは体育会本部まで
TEL:06-6788-7052
部室：総合体育館（北側）1階

フォローしてね
大阪商業大学　課外活動支援課
@oucsportscenter

フォローしてね
大阪商業大学　体育会本部
taiikukaihonbu

新入生歓迎!!　「第25回いぶき祭」を開催します
日　時：2023年4月10日(月)10:30～17:00
場　所：ファミリーマート前ステージ他
※雨天決行
特設ステージでも先輩たちがクラブを熱く紹介します。参加して気になるクラブの情報を入手しよう！他にも無料の軽食配付や、ビンゴ大会などのお楽しみ企画も行います！

途中入部もOK　「クラブ・サークル勧誘」を実施します
日　時：2023年4月11日(火)～14日(金)・17日(月)10:00～15:00
※雨天中止
場　所：メインストリート、谷岡記念館横（GATEWAY下に「勧誘相談所」を設置）
いぶき祭の翌日からクラブ・サークル勧誘が始まります。入部希望者は、各クラブ・サークルのブースの先輩に気軽に話しかけてみよう！分からないことがあれば「勧誘相談所」まで。入部は新入生以外でももちろん可能です！

大商大スポーツ バックナンバー

2008年7月に創刊した「大商大スポーツ」新聞。体育会本部と課外活動支援課で共同制作しています。前期・後期の年2回発行しています。

バックナンバーはこちら→

闘え！大商大！ メールマガジン会員募集中

体育会系強化育成・強化クラブの試合予定や試合結果をお届けするメールマガジンをクラブシーズン中の毎週月曜日に配信！！

ご登録はこちらから→

※メールアドレスの登録間違いにご注意ください

大阪商業大学 課外活動WEBページ

WEBページには、体育会系クラブ・文化会系クラブ・五者団体の紹介をはじめ、各団体の最新のNews&Topicsを随時更新しています。
体育会系強化育成クラブ・強化クラブの年間の試合予定は、カレンダーから確認できます。全ての体育会系クラブの試合結果もくまなく掲載。



※文中人名後の（　）内は、所属学科学年・出身高校

全日本大学王座 準V



あと一歩



全日本ボクシング選手権大会
11月23日～27日　墨田区総合体育館

「第76回全日本大学ボクシング王座決定戦」
準優勝
敢闘賞　浅井 陸（公共1・堺工科）

「第77回国民体育大会（いちご一会とちぎ国体）正式競技ボクシング競技」
成年男子ライトウェルター級　ベスト8　守屋 龍之介（公共4・新田・愛媛県代表）

「全日本ボクシング選手権大会」

男子フライ級	ベスト8	青山 思惟（公共3・興國）
男子フェザー級	1回戦敗退	辻 愛斗（公共2・札幌北斗）
男子ライト級	3位	柴田 錬（商2・岡山商科大学附属）
男子ライトウェルター級	1回戦敗退	本間 虹人（公共1・札幌工業）
男子ウェルター級	ベスト8	守屋 龍之介（公共4・新田）
男子ミドル級	棄権	丸石 一誠（公共3・高知中央）



第76回全日本大学ボクシング王座決定戦
8月27日　アダストリアみとアリーナ

ボクシング部

関西学生リーグを制した大商大は、8月末に大学日本一を決める全日本大学ボクシング王座決定戦に2大会ぶりに出場した。対戦相手は関東大学リーグを制した東洋大学。前々回大会でも東洋大と対戦し0―11で敗れた大商大は、その悔しさを胸に挑戦者の立場で王座奪取に挑んだ。

試合は9階級11試合の対抗戦で行われる。1戦目のミニマム級の丹下昂紀（経営2・浪速）が自分のペースに持ち込んで相手を焦らせ、4―0の判定勝ち。白星発進でチームを勢いづけたかに思われたが、続くフライ級、バンタム級、フェザー級と3連敗を喫してしまう。ここで一矢報いたのが、5戦目のフェザー級のルーキー・浅井陸（公共1・堺工科）。カウンターを狙って強いパンチを浴びせ、5―0で判定勝ちを収めた。浅井はこの大会の敢闘賞に選ばれた。

ここから巻き返しを図りたい大商大だったが、ライト級からミドル級まで悔しい6連敗。強敵・東洋大を前に一心不乱に奮闘したが、かなわなかった。2―9で敗れ、準優勝に終わった。

主将の加藤一輝（公共4・札幌白陵）は「東洋大はレベルが非常に高かったが、そんな相手と戦って自信を持てた」と語った。敗れはしたが、日本一に向けて確実に一歩前進した大商大。この経験を糧に来季再び王座へ挑戦し、初優勝をその手につかんでほしい。

全日本大学選手権 29年ぶり8強



文部科学大臣杯第74回全日本大学準硬式野球選手権大会
8月23日～27日　レクザムボールパーク丸亀他

準硬式野球部

11年ぶりに出場を果たした全日本大学準硬式野球選手権大会で、大商大準硬式野球部が29年ぶりとなるベスト8という結果を残した。愛知大学との2回戦、8回裏に法月拓（公共2・加藤学園）が四球を選び4―4の同点に追いつくと、2死満塁の場面で代打の森本翔（公共4・汎愛）が勝ち越しタイムリーを放ち、逆転に成功。投げては先発の松室歳唯（公共3・高取国際）が9回表を三者凡退に抑え、159球の完投で初戦を突破した。しかし、準々決勝では帝京大学に惜しくも3―4で敗れた。

前主将の佐柳侑樹（商4・観音寺総合）は「格上の相手だったが、1戦目先発の松室、2戦目先発の今城景太（経済4・岡山理科大学附属）を中心に、全員で戦い抜けた。4年生は全日本ベスト8で引退できて満足している。でも、結果よりも試合にかける思いやチームのまとまりがよく出ていたことが良かった」と振り返った。

また、個人でも全日本大学準硬式野球東西対抗日本一決定戦甲子園大会に投手・松室が、全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会に外野手・市村海知（経営3・市立神港橋）とマネージャー・辻優衣奈（経営3・伊丹西）が選抜され、全国大会出場を果たした。

文／清水颯真（公共1・吹田）



「文部科学大臣杯第74回全日本大学準硬式野球選手権大会」
ベスト8
全日本表彰選手（投手）　今城 景太（経済4・岡山理科大学附属）
全日本表彰選手（投手）　松室 歳唯（公共3・高取国際）

「第31回関西地区大学六リーグ対抗準硬式野球大会」
3位　阪神六大学選抜チーム

「全日本大学準硬式野球東西対抗日本一決定戦甲子園大会 連盟設立75周年記念プレマッチ」
雨天中止
選抜選手（投手）　西日本選抜チーム　松室 歳唯（公共3・高取国際）

「第40回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会」
予選リーグ敗退　全関西選抜チーム
選抜選手（外野手）　市村 海知（経営3・市立神港橋）
選抜選手（マネージャー）　辻 優衣奈（経営3・伊丹西）

「2022年度全日本大学準硬式野球連盟オーストラリア遠征」
全日本選抜チーム（ALL JAPAN）
選抜選手（投手）　松室 歳唯（公共3・高取国際）
選抜選手（マネージャー）　辻 優衣奈（経営3・伊丹西）

東西対抗日本一決定戦



全日本大学準硬式野球東西対抗日本一決定戦甲子園大会
連盟設立75周年記念プレマッチ
11月13日　阪神甲子園球場

全日本大学9ブロック対抗



第40回全日本大学
9ブロック対抗準硬式野球大会
11月19日・20日　福岡大学野球場他

男子ライト級 柴田3位



アマチュアボクシングの国内最高峰の大会である全日本ボクシング選手権大会が11月末に聖地・墨田区で行われ、柴田錬（商2・岡山商科大学附属）が男子ライト級で3位入賞を決めた。試合前、対戦相手の映像を見て戦い方を研究。フットワークとパンチスピードを強化してきた。そして、本番では激闘の末、表彰台に登った。

柴田は「3位まで残れてほっとしたけど、やっぱり優勝したかった」と正直な思いを吐露した。柴田の今後の目標は、「日の丸を背負う選手になる」ことだ。同じ大商大生として誇りに思う。ぜひとも日本一になってほしい。

文／小柳治輝（経営1・神戸野田）

我楽多

▼硬式野球を担当しました。1面は目を引く見出しを考え、より見やすくて読みやすい新聞になるように工夫しました。まだまだ至らぬ所もありますが、スポーツのルールを知らない人でも分かりやすい新聞を作れるように頑張りたいです。（酒谷）

▼先輩たちの過去の記事を参考にし、自分なりに上手くできたと思います。ですが、初めて記事を書いたので、スポーツ新聞独特の言い回しや伝え方にとても苦戦しました。次回は、より良い記事を書けるように頑張っていきたいです。（奥野）

▼広報部になって、今回初めて新聞を任せてもらいました。記事を書くという経験は今までしたことがなく、不安が大きかったですが、先輩方のサポートもあり、なんとか仕上げることができました。今回の経験を次に生かしたいです。（竹中）

▼今回初めて新聞を担当して、とても難しいなと感じました。取材の仕方や言葉の言い回しなど、先輩たちに教えてもらいながら記事を完成させることができました。次回は、できるだけ自分の力で完成させるように頑張ります。（知念）

▼初めて新聞を担当しました。クラブ生のみなさんが頑張っている姿を見てすごいなと思いました。そして勇気をもらいました。選手の魅力をしっかりと伝えられるように、撮影と取材に取り組んでいきたいです。（清水）

闘え！大商大 大商大スポーツ DAISHODAI SPORTS
発行編集　大阪商業大学 課外活動支援課
印刷　共同精版印刷株式会社

※文中人名後の（　）内は、所属学科学年・出身高校